

補正予算成立

問題だらけ正せぬまま

水膨れした歳出規模も個々の中身も疑問だらけのうえ、財源の7割が借金頼みという補正予算が成立した。型通りの短時日の審議で問題点を正せなかつた、国余金体への信頼が揺らぎかねない。

衆参3回ずつの予算委員会での質疑では、岸田首相らから、説得力のある説明は最後まで聞かれなかつた。今の経済情勢で、東日本大震災後などに匹敵する13兆円余りの財政出動が必要なのかという根本的疑問にも、「必要な政策を積み上げた結果」といった抽象的な答弁に終始した。

財政法は、補正予算を「緊要な経費」などと限つてい る。今までに物価高と苦しむ低所得者への給付金は理解できるが、産業を支援する基金の積み増しや公共事業の継続において兆円単位をつぎ込むのは趣旨に反する。しかし、政府側は「われわれの『緊要』だと

強弁を重ねた。

今回の補正には含まれないが、首相が打ち出した来年度の定額減税も主要な論点となつた。政策目的は何か、防衛増税との整合性はあるのか、即効性のない減税などだわるのはなぜか——。野党からの脇に落ちる答えはなかつた。

これでは、国民の経済対策への理解も、内閣への信頼も、回復は望めまい。首相の判断の根っこには、自らの権力維持や選挙対策があるのでないか。そんな疑いの目が注がれてくる」と、首相は深刻に受け止めるべあだ。

今回の補正予算には、野党から日本維新の余る国民民主党政権への賛成と回った。緊急の災害対策などを盛り込んだ補正予算に野党が賛成する以上は珍しくないが、これほど問題点の明白な予算の成立を後押しするとは到底求められないと野党は示す。政権与党を厳しくするとは言ふべきだ。

チェックする野党の本分に もどるといつぱかない。

維新が岸田内閣の提出した予算に賛成したのは初めてだ。大阪・関西万博の追加負担分が計上されていることなど理由に挙げたが、自党的な関心政策を優先した判断は、「都合主義ではないか。

国民党は、ガソリン税を一時的に引き下げる「トリガ一条項」発動の検討を首相が指示したことを大義名分とした。昨年春、同じ理由で、野党としては極めて異例の当初予算への賛成に踏み切りながら、実現に至らなかつたりとを忘れたのか。野党の分断を狙う政権の思つぽだ。